

# 🧝「A ものづくり」の単元開発【第5学年】

# 「B地域の創生」の単元開発【第6学年】



茶葉に梅の加工食品を加えて販 売する場合には、食品衛生法の表 示義務が生じることなど、教員が 知らない点まで教えていただき、 授業に生かしました。

授業パートナーと直接交流の場 を設けました。児童の興味・関心 が一気に高まりました。

いきなり製品の開発は難しいて すが、児童と教員が開発のための 知識や視点を得ることが必要だと 感じました。

要素を多めに詰め込んだコン セプトとなりましたが、その分、も のづくりの過程で「これじゃだめ だ」と軌道修正に役立ちました。

放課後に代表児童2名と共に 蒲南茶荘様へ出掛けました。動画 でその様子を後日他の児童にも 見せました。

#### 級を工場に見立てる

製品部門ごとに活動しました。 アイデア出しはグループごとと 、スライドにまとめたものを全体 検討する場を設けました。

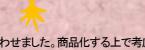
# 茶のプロの視点×梅のプロの

味のデザインには、より多くの 視点からフィードバックをいただ きました。味の決定に役立つだ けでなく、自信をもってものづく りを進める力になりました。

製品開発の過程では「本当に できるのだろうか」と自信がなく なる局面もありました。活動途 中に授業パートナーに進捗報告 をしたり、自分たちの学習を振り 返ったりする機会をこまめにと ることで、少しずつ前進すること ができました。教員も、見通しを もてない部分を少しずつ切り拓 いていきました。

実際に販売できる商品が完成 した!それだけでこどもたちは大 興奮です。さらに、学校公開時に 販売に携わることで、物流、お金 についても体験的に学ぶことが できました。正に、世の中に生き た学習です。

## 事前の打合せ



蒲南茶荘の鈴木様と打ち合わせました。商品化する上で考慮しな ければならない点を確認し、販売のためには選択肢が限られる部 分と、児童のアイデアを生かせる部分があることが分かりました。

#### 知る、体験する活動①

蒲南茶荘を見学させていただき、茶やお茶屋に関することを教 えていただきました。 とうの第三者 検索門 9

### 知る、体験する活動2

蒲南茶荘の鈴木様の御協力の下、利き茶や飲み比べを通して、 温度や茶葉による味の違いを確かめる体験を行いました。茶葉に どんな種類があるのかなど、これから製品を開発に生かせる知識 や視点を得ることができました。

#### 依頼を受ける⇒コンセプトの設定

「東蒲小のオリジナルブレンド茶をつくる」という方向性までは、依 頼を受けた時点で決定させておき、児童には「●●●なお茶をつく ろう」の●●●の部分を考えさせました。「梅がほんのりすっぱくて お茶の旨味が絡み合った大人もこどもも飲んで元気になるおいしい お茶をつくろう」というコンセプトを決めました。

#### コンセプトに対するフィードバック

つくったコンセプトを授業パートナーの皆様に見せて励ましや 御意見をいただきました。やってみないと見えてこない部分があ ることも含めて前向きに応援していただきました。

#### もち味を生かした役割分担によるデザイン

学級全体を「とうめ茶工場」と名付け、パッケージ部門、味部門、CM ソング部門、広告部門、企画部門、入れ物部門、価格部門、売り場部 門、ちらし部門の各部門に分かれてアイデア出しを行い、全員で話し 合って決めたいことは「全部門会議」と名付けた学級会で決めました。

#### デザインに対するフィードバック



つくったデザインを蒲南茶荘の鈴木様に聞いていただき、「実現困 難か」、「他の選択肢はあるか」などの御意見をうかがいました。

さらに、和歌山県みなべ町うめ課の平様と下浦様に梅農家の立場 から、学校公開時に保護者の皆様に消費者の視点から、それぞれ試 作品を試飲していただいて、御意見を収集しました。

## 活動途中に振り返る時間を設けたクリエイション

活動の途中に、今日の学習で「自分ができたこと」や「友達のよかっ た点」、「自分たちの部門に勢いはあったか」など、自分や他者のよさ やもち味を認め合うための様々な視点から活動を振り返らせました。

#### クリエイションに対するフィードバック

クリエイションでつくった成果物を蒲南茶荘の鈴木様に見ていた だき励ましや御意見をいただきました。

## 完成品を販売

出来上がった茶を学校公開時に校内で販売したり 蒲南茶荘に置かせていただいたりして販売しました。

















# セプ

ザ

∃













## 事前の打合せ

大森麦わら細工の会の藤塚様と大田区立郷土博物館の小室様と打 ち合わせました。児童が体験する前に、教員が貼り細工を体験させて いただきました。

## 知る、体験する活動①

児童と教員が、旧キネマ通り商店街を散策し、蒲田図書館で開催さ れた回顧展を訪れました。地域を実際に歩いて感じた体験を通して、 「地域を活性化させたい」という思いをもちやすくなるようにしました。



## 知る、体験する活動2

大森麦わら細工の会の藤塚様と大田区立郷土博物館の小室様か ら、大森麦わら細工の歴史や作り方を教えていただき、実際に児童が 作品を制作しました。



## 依頼を受ける➡コンセプトの設定

キネマ通り商店街元会長の柳町様には旧キネマ通り商店街の活性 化の願い、大森麦わら細工の会の藤塚様には伝統継承の思いをそれ ぞれ語っていただきました。それらの依頼を受けて、「大森麦わら細工 で旧キネマ通り商店街を元気にしよう」という内容の学年全体のコンセ プトを設定し、活動を方向付けました。その後、商店ごとに異なるニー ズに応えるために、3つのグループごとにコンセプトを設定しました。

## コンセプトに対するフィードバック

設定したコンセプトを授業パートナーの皆様に見ていただき、励ま しや御意見をいただきました。

## もち味を生かした役割分担によるデザイン

児童をグループに分け、さらに、グループ内でも役割分担をさせ ることで、一人一人のもち味を生かせる場を用意しました。



# デザインに対するフィードバック

つくったデザインを授業パートナーの皆様に見ていただき、励ま しや御意見をいただきました。

# 活動途中に振り返る時間を設けたクリエイション

デザインの段階と同様に、役割分担を行い、もち味を生かせるよ うにしました。加えて、活動の途中に、活動を振り返る時間を設ける ことで、自分や他者のよさやもち味を認め合うようにし、もち味を生 かして挑戦できるようにしました。

# クリエイションに対するフィードバック

クリエイションでつくった成果物を授業パートナーの皆様に見せて 励ましや御意見をいただきました。授業パートナーである商店街の 皆様と地域のこどもたちが、共に東蒲田の地域創生を願いました。



## 完成品を通して地域に発信

麦を水につけて柔らかくし、アイロンをかけて光沢を出し、ボード に張り付けて出来上がった麦わら細工を商店に置かせていただき、 地域の創生への願いを込めて発信しました。

教員が麦わら細工の魅力を感じることで、単 元開発のイメージが豊かになりました。

授業パートナーからの依頼を受ける前に、問 題意識につながる体験活動をしました。

長期間に及ぶ創造と探究には、意欲を継続 させる面白さや魅力が必要だと考えました。授 業パートナーからの依頼を受ける前に、児童自 身が面白さや魅力に触れる体験の機会を設け ました。

学年全体のコンセプトとグループごとのコ ⁄セプトの2つを立てました。活動の方向性を 統一するために学年で大きなコンセプトを立 て、ニーズの異なる店舗ごとにグループコン セプトを立てたことで、相手意識を大切にした コンセプトを追究しました。

# **ノセプト、デザイン、クリエイション**

授業パートナーに進捗状況を報告し、励まし や助言をいただきました。

図案を考えることが得意な児童や、歴史へ の興味が高い児童など、それぞれのもち味はよって役割分担をしながらグループ活動を行 うことで、児童がもち味を生かした挑戦をで きる場を用意しました。

# 動途中の振り返る活動で

活動終了後だけでなく、活動途中に自分や 他者のよさやもち味を認め合う時間を設ける ことで、自分のよさやもち味を自覚したり、軌 道修正したりできるようにしました。

# 复数の授業パートナーとの連携

地域住民の一員であり、商店の事業主 でもある旧キネマ通り商店街の皆様から 地域活性化への願いや、商店を訪れる客 のことを考えた御意見をいただきました。

大森麦わら細工の会や大田区立郷土博 物館の皆様からは、歴史的な背景や、伝統 継承の願いを踏まえた御意見をいただき

おおたの未来づくりの学習は、答えの 無い課題に挑戦するので、活動の自由度 が高い面白さを感じる前に、活動の方針 が立たずに迷う可能性もある学習です。 複数の授業パートナーと連携した本実践 では、様々な視点からの励ましや助言を いただくことができ、そうした迷走が起き ることなく、実践することができました。



# 創造的な資質・能力の素地の育成

# 【第1学年~第4学年、専科(次のページ)】

わたしの町のよいところ





秋となかよし

条件を整えました。

令和6年9月25日(水) 授業者:福岡 悠花 【1年2組】 秋の自然物に触れることで様々な発見をし、秋のおもちゃを作る見通しをもち秋を楽しむことができる。



素地の育成をねらっていますが、本 効果的な試行錯誤をさせるために、



試行錯誤が生まれやすい場を整 えました。

使いたい物を選択できる場の工夫



教員は、評価をしながら児童の様子 を見取り、個別支援を行いました。







多様な考えをもち、選択し、自己決定 することができる学習にしました。

学年 国語科

\* 1 伝え合う 2 個人 3 74-7 4 DUESE 学習計画や学び方の見通しをもたせる

主体的に問題を解決できるように、試 行錯誤の目的や方法を明示しました。

令和6年12月11日(水) 授業者:林 蓉子

し、友達と意見交流をして、書きたいことを決めることができる。

紹介したい場所やものを決めるために、図を用いてその理由を詳しく書き出

試行錯誤をしやすいウェビング マップを活用しました。

思考ソールを活用したワークシー



【3年1組】

教員は、児童の様子を見取り、軌道修正 が必要なグループには問い掛けました。



時のめあては生活科の目標です。

児童同士が互いのよさやもち味を認 め合うための時間を設けました。

「できタネ♪」「いいね♪」で振り返り

目指すこども像を意識し、キャラク -を活用して振り返らせました。

#### 授業者自評

■単元の最後だけでなく、単元の途中にも振り返る活動を取り入れることで、児童 自身が自らの学習状況を把握することができるようにした。■個の学びと集団で の学びを往還することで、児童が自他のよさやもち味に気付けるようにした。

#### 参観者からの意見

■前時までの学習を児童の言葉で振り返ることで意欲につながっていた。■書字 に抵抗感がある児童にも自己評価ができる振り返りシートだった。■他学年で実 践する場合には、完成形の紹介のみではなく、失敗や過程の紹介もあるとよい。

#### 指導講評 大田区教育委員会事務局指導課 指導主事 江袋 勇樹 様

■授業後の児童の姿を想像し、学習の最終形態を児童も教員も理解していること が重要である。■キャラクターを活用した視覚的な振り返りは児童に有効だっ た。どこがよかったか、もう少しだったかを教員が整理して言語化できるとよい。

・話合い活動を通して、自分と他者の互いを認め合うことができる。



考えを広く認め合うことで、その後の自己 決定の自信につながるようにしました。

学年 社会科



言葉で振り返らせ、本時の学習を 価値付けました。

■書く意欲が高く、じっくりと書きたい児童が多い実態に合わせ、試行錯誤の時間を 15 分間設定した。■書く時間の途中に相談し合える時間を設定したり、自分の班との 交流後に他の班とも交流したりするなど、協働的な学びは更に工夫できそうだった。

■試行錯誤に夢中になれる場だった。■意図的に伝え合う時間を設定するより、自然 発生的に話し合う方が価値が高い場合がある。■でも、意図的に言語化させることも 大切。■友達同士の紹介を受け、もう一回試す時間を設定してもよい。

#### 指導講評 大田区教育委員会事務局指導課 指導主事 遠藤 健太 様

令和7年1月21日(火) 授業者: 鵝木 祥

■目的に合致した適切な思考ツールを活用することが大切である。■試行錯誤の時 間の 15 分を7分と8分に分けて中間評価をすることも有効である。■思考力、判断 力、表現力等を養う時間に、主体的に学習に取り組む態度の素地を養うと、二兎を追 うことになるので、より適時に素地を養うカリキュラム・マネジメントをするとよい。

東京都の先人の働きについて、既習事項を振り返り、主体的に問題を解決し



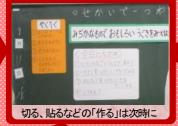
学年 生活科

世界で一つ 私のおもちゃ

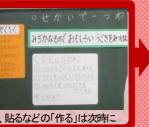
令和6年9月11日(水) 授業者:小早川 湧万 ・身近な素材に触り、素材の特徴や面白さに気付くことができる。



素地の育成をねらっていますが、本 時のめあては生活科の目標です。



児童が効果的な試行錯誤をするた めに、条件を整えました。



試行錯誤が生まれやすい場を整 えました。

授業者自評

遊びながら発想できる場の工夫

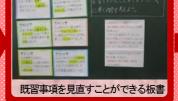


【2年2組】

教員は、途中で活動を止めさせ、他の 児童の考えを知る時間を設けました。



掲示物を活用して、既習事項を振り返 り、本時の目標を問い掛けました。



すごろくで学ぼう!六郷用水

試行錯誤の途中に活用できる掲 示物を導入にて提示しました。



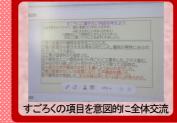
ようとしている。

PC は順序の入れ替えや修正が容易



【4年2組】

ICT を活用し、考えを整理し、交流 自由に立ち歩き他者参照して、自分



多様な考えに触れることができるよ

う、担任が意図的に指名しました。



言葉で振り返らせ、本時の学習を 価値付けました。

しやすい環境を整えました。 の考えに生かす時間を設けました。 授業者自評

# ■単元を通して、時間をかけて既習事項を積み重ねてきた。■教材研究の段階で、 すごろくのマスに書ける社会的事象を授業者自身が書いてみて、児童にとって可能 な個数の目安を示した。■協働的な学びなど、更に工夫できる点もあった。

参観者からの意見 ■前時までの復習ができていて、既習事項を活用してすごろくをつくることができて いた。■ICTを活用した学習活動に集中していた。■交流の時間には、視点を示す とよい。■教員による評価だけでなく、児童同士の相互評価の機会も設けるとよい。

## 指導講評 大田区教育委員会事務局指導課 統括指導主事 秋山 亮 様

■ファシリテーションを意識し、発問から本時の目標を決めていてよかった。他にも、あ えて答えずに切り返すことも有効である。■赤色で加筆させたことで、児童の学びの調 整を教員が見取ることができて有効だった。■考えの共有から自己調整につなげたい。

ペアやグループでの試行錯誤

児童同士が協力して考えられるよう、 ペアやグループで活動させました。

研究キャラクターを活用してできた ことを3段階で振り返らせました。

#### ■素材の動きを試して遊べる活動時間を十分に確保し、素材の面白さに気付かせ ることで、児童が自分のもち味を生かして挑戦できるようにした。■自分と友達の 二視点から振り返らせることで、友達のよさや自分の学びを実感できるようにした。 参観者からの意見

研究キャラクターを生かした振り返り

■試行錯誤に夢中になれる場だった。■意図的に伝え合う時間を設定するより、 自然発生的に話し合う方が価値が高い場合がある。■でも、意図的に言語化させ ることも大切。■友達同士の紹介を受け、もう一回試す時間を設定してもよい。

指導講評 大田区教育委員会事務局指導課 指導主事 原口 慧史 様

■中間評価は、学習の方向性を整え、児童自身が獲得できたと自覚できるので、 意義が大きい。何がよいのかを具体的に伝えるとよい。■振り返る活動の前に、 本時のめあてを確認するとよい。■ICTの活用は保存と共有に価値が大きい。



# おおたの未来づくりに関しての実感

# 本校が目指す創造的な資質・能力の素地の系統的な指導



理 科専科

生き物同士の関わり

令和6年7月10日(水) 授業者:和田 光生 【6年1組】 食材の養分は植物が創出したことを知り、生物同士の連鎖的なつながりを理解する。

# 全部の具材に養分がある カレーライス にんじん じゃがいも 身近な生活を題材に 当日の給食







児童に身近な当日の給食写真を 提示し、興味・関心を高めました。 効果的な試行錯誤をさせるために、本 時の問題解決の見通しを示しました。

試行錯誤をしやすい思考ツール を活用しました。

教員は、児童の様子を見取り、軌道修正 が必要なグループには問い掛けました。





# 授業者自評

■本時では、学習の途中に学びを振り返る時間を設定した。自分や他者のよさを認め 合うことを継続できるようにしていきたい。■児童の学習意欲を大切にして題材を設 定した。よさを認め合えるようにするために、意欲を高める授業を工夫していきたい。

#### 参観者からの意見

■自己理解や、自己を認めることが一番大切である。そこがあって初めて他者のよさ を認めることができる。■毎時間振り返ることで、慣れてくると、伸びた、分かるように なったなど、自己理解が積み重なっていくと思う。

#### 指導講評 大田区教育委員会事務局指導課 指導主事 遠藤 健太 様

■STEAM教育であるおおたの未来づくりで児童は、自分の得意な部分を生かして

## 児童同士が協力して考えられるよ う、グループで活動させました。

目指すこども像を意識し、全校共通 の合言葉で振り返らせました。

挑戦しチームに貢献できる。■第6学年の姿は、第1~5学年が積み上げないといけ ない姿。足りない点は、第1~5学年が請け負い、素地を系統的に養う必要がある。

## |何が大変か見えてきたこと 単元を開発してみて、おおたの未来づくりの授業づくりで、大変だと分かった点がありました。

∧「B 地域の創生」と比較すると、 「A ものづくり」の方が、教員も 児童と同様に見通しをもつこと が難しく、「あとは何をすれば商 品化まで実現できるのか」を授 業パートナーに訊きながらでな いと授業計画を立てられません でした。



○地域人材の活用ができてよ かったです。また。大田区の施 設(大田区郷+博物館)との連 携ができてよかったです。

○知る、体験する活動を設定した ことで、コンセプトの段階を充 実させることができました。

○学習を進めていくと、打合せが 必要だと感じる時が必ず訪れた ので、よく分からないうちに無理 やり全て一度に打ち合わせよう としなくてもよいと感じました。

○メールと電話を活用したので、 空き時間に返信できました。



○長期間に及ぶ学習なので、 意欲の継続が 不可欠だと分かりました。そのためには、 単元の導入で魅力に触れる体験をするこ と、活動途中に自他のよさやもち味を認め 合うこと、授業パートナーにこまめに連絡 をとって助言や励ましをいただくことなど、 指導の手だてを講じなければ、児童も教 員も行き詰まることが分かりました。

## ■児童が役割分担できるように 児童にどのような役割分担をさせるかが決まると、一気に進みました。単元開発のカギの一つ!!

△今年度は、第5学年も第6学年も 単学級だったため、2学級になっ た場合、それぞれの学級で別の お茶をつくるのか、学年全体で つのお茶をつくるのかによって 役割分担の仕方が変わります。 もち味を生かして活躍できるよ うに次年度も計画しなければな らないという課題が生じます。



△コンセプトの段階を充実させるこ とができた一方で、デザインとクリ エイションに掛けられる時数が限 られました。

ようとしたが、 年度当初は準備や

打合せが追い付かず、授業開きが

なかなかできませんでした。

△時間割に週Ⅰ単位時間を位置付け

○総合的な学習の時間や行事で 以前からつながりのあった皆様 との人脈を活用することができ ました。

○本格的な実施が2学期からと なったが、2学期は週1~2単位 時間でコンスタントにプロジェク トを進めることができました。



○第6学年は、商店街にある店ごとに分担し、 第5学年は、パッケージデザイン、価格設 定、売り場レイアウト、CM ソングの作詞作 曲、CM 動画の制作、味の選択肢の立案な ど、様々な要素があったので、どちらの学 年も役割分担が比較的容易でした。

○児童が自己選択した役割なので、意欲的に 活動することができました。

#### ノセプトは学年(学級)で一つかグループごとか 今年度は、第5学年が学年で一つ、第6学年がグループごとでした。次年度も悩む点だと思いました。

△コンセプトが1つだと、「コンセプトに合致してい るか」ということを考える上で分かりやすいが、複 数にしてしまうと、グループごとに異なるために 学級(学年)で共有しづらくなると思いました。

△年度当初は、教員がおおたの未来づくりの趣旨を 理解した後、教材開発をして、さらにその後に授業 パートナーと打合せをした後にやっと学習開始と なるので、学習の開始時期が遅くなりました。



△単学級での取組だった ので、2学級になった場 合にどうするのかを検討 する必要があります。で きれば1つにする前提で 活動を計画し、複数にす る合理的な理由が生じ た場合に複数にすれば

よいと考えています。

○コンセプト、デザイン、クリエイショ ンの中で、コンセプトが一番大事 だと感じました。しっかりとしたコ ンセプトが決まれば、その後ス ムーズに展開しました。

○コンセプトに「誰を、誰に」を入れ たことで、相手意識をもって学習 を進めることができました。



○第5学年は学級(学年)で1つのコンセプ トでシンプルに行うことができました。

○第6学年は学級(学年)のコンセプトと、グ ループごとのコンセプトの大小2つのコン セプトをつくりました。グループごとのコン ヤプトを別につくった理由は、連携する商 店ごとにニーズが異なるためであり、合理

教科「おおたの未来づくり」では、第5学年から第6学年までで育成を目指す創造的な資質・能力の目標が以下のように設定されている。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域の社会や人々の「Well-being」 につなが	試行錯誤して、地域の人々の「Well-being」	実社会で活躍する様々な人などとの関わりを大
る「ものづくりや「地域の創生」に必要な知識	につながるものや取組を生み出し、発信するこ	
及び技能を身に付けるようにする。	とができるようにする。	て主体的に取り組み、よりよい未来を創造しよう
		とする態度を養う。

引用: 教科「おおたの未来づくり」指導の手引き(案)(令和6年5月版)大田区教育委員会p.4(表は本校による)

それに対応して、第1学年から第4学年までで育成を目指す創造的な資質・能力の素地が以下のように設定されている。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
問題の発見・解決に必要な情報を収集・活用	目標と現状、予測と結果、異なる意見などを	実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、
するための知識及び技能を身に付ける。	比較し、問題を発見する力を身に付ける。	問題の発見・解決に資する情報収集にすすんで関
分かったことや考えたことを相手に分かり	既習事項や収集した情報、多様な考えを整理	わろうとする態度を身に付ける。
やすく伝えるための言語や情報技術に関する	して問題の解決策を考える力を身に付ける。	問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよ
知識及び技能を習得する。	問題を発見し、解決方法を考え、結果を予測	さを生かして協働しながら、主体的に取り組もう
	しながら試行錯誤して解決方法の実行を繰り	とする態度を身に付ける。
	返し、問題解決を図る力を身に付ける。	学習を振り返って学習状況を把握し、次の問題

引用: 教科「おおたの未来づくり」指導の手引き(案) (令和6年5月版) 大田区教育委員会 p. 16 (下線は本校による)

上表を第4学年までのゴールと捉える。第1学年から第4学年で教科等横断的に単元の中で網羅できるように する。本研究では研究主題や目指すこども像に関連して、特に下線部分の素地に焦点化して取り組むこととする。 「学びに向かう力、人間性等」の「問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しなが

ら、主体的に取り組もうとする態度」を身に付けた具体的な児童の姿を本校独自に下表にまとめた。この表 は、学年ごとに系統的な指導を実現する目安として活用するためのものである。

素地は幅広いので、学校目標や 研究主題に照らして、本校の重点 目標を選択しました。授業学年に 委ねずに、全校で統一しました。

発見・解決につなげていこうとする態度を養う。

## 創造的な資質・能力の素地を系統的に指導する目安

	<del>"</del>	1	2	3	4	5	6
	創造的な資質・能力と素地の具体的な姿				•		ŭ
	協働による相乗効果を生み出せるように、多様な考えを出し合った上で方向性を決定しようと						
るま	している。						
ラながる素地	自分や友達の考えを出し合って、めあてを決めようとしている。			•	•	•	•
22.0	もっとやりたいこと(めあて)について、自分の考えを発表している。		•	•		•	
みだ	アイデアを組み合わせて設計や企画を改善・修正しようとしている。					•	
つながる 素地	自分や友達のよさを生かして、再検討しようとしている。			•	•	•	•
蒸に	試行錯誤の中で、自分や友達のよさを認めようとしている。	•	•	•	•	•	•
にク	互いの特長やもち味を生かして作業を分担し、役割に責任をもって取り組もうとしている。					•	•
につながる楽地	役割分担をして、自分や友達のよさを生かそうとしている。			•		•	•
竜 ラ	自分や友達のよさを授業の中で1つ以上見付けようとしている。	•	•	•	•	•	•

※ 字年は指導の目安を示すものである。

# 創造的な資質・能力の素地を指導する手だての例

以下の表は、第1~4学年で、創造的な資質・能力の素地を指導する際に、学習活動を設定する際の例を示すものである。また、表中の「できタネ N INIX NI け 旧音が白公と方達の FINA ころを目付ける木均独白の会言葉である

J	个プロス、元里が日ガと及送のよいところを見刊しる本文独目の古言来である。						
	学年素地を育成する学習活動例	1	2	3	4	5	6
Á	「できましたか」の問い掛けに対して挙手で表明する	•	•				
自分や友達のと	「できた」、「もう少し」などの選択肢から選ぶ		•				
いね♪	選択肢から選んでOを付けたり、色を塗ったり、シールを貼ったりする		•				
を定	自分ができたことや友達のよさ(できタネ♪、いいネ♪)について、ペアの友達に話す		•	•			
を見付ける学習活動	自分ができたことや友達のよさについて、グループの友達に話す。		•	•	•	•	•
ける学習	自分ができたことや友達のよさについて、学級全体に発表する		•		•	•	•
喜 ター	自分ができたことや友達のよさについて、一文で書く		•		•	•	•
- 10	自分ができたことや友達のよさについて、理由を付けて文章で書く				•	•	•
()	自分ができたことや友達のよさについて、タブレット端末で入力して交流する				•	•	•
	There are the first of a sectoral constant to the sector of the sector o						

※ 学年は指導の目安を示すものである。発達段階や学習経験に応じて柔軟に指導方法を工夫する。



ジを共有するための表なので、 児童の具体的



# 児童の実態把握及び検証

7月・12月の児童アンケート結果・考察

💢 次年度への課題

# もち味(よさ)を生かして挑戦している。

52.3

7月

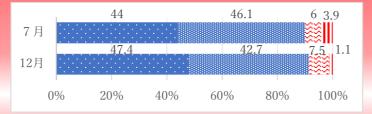
12月





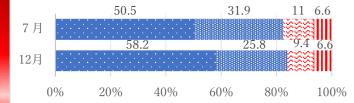
「あてはまらない」が4.5ポイント増の6.1%。もち味(よさ)が見付 けられないのか、生かして挑戦できていないのか。教員が児童のよさやも ち味を見取り、認め、授業中のファシリテーションに生かしていきます。

#### 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



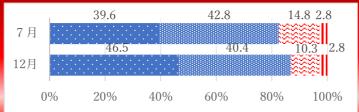
地域や社会に対する興味が高いことは、東蒲小の児童のもち味(よ さ)として今後も全校で大切にしていきたい点だと分かりました。お おたの未来づくりの「地域の創生」の学習につながります。

## 自分にはよいところがあると思う。



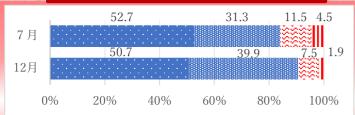
肯定的な回答が 1.6 ポイントと微増。自己肯定感の低い児童に関し て一人一人を把握し、もち味を生かして活躍する場の設定や、肯定的 な声掛けの継続など丁寧な対応を続ける必要があります。

## 授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ。



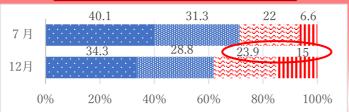
肯定的な回答が4.5ポイント増加しました。教員が、児童主体の授業 スタイルを意図的に増やした成果といえます。否定的な回答が 13. 1%な ので、この層に焦点を当て、引き続き授業改善に取り組みます。

#### 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深 めたり、広げたりすることができている。



肯定的な回答が6.6ポイント増加し、割合も9割を超えています。 授業の中で、ペアやグループでの話合い、交流活動などの協働的な 学びを積極的に取り入れた成果が出ていると考えられます。

# 考えをまとめ、発表することができる。

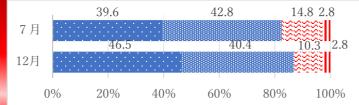


項目に比べて38.9%と大きい。一斉授業スタイルから、デジタル学習基盤 を生かした新しい授業スタイルへの一層の転換が必要だと考えます。

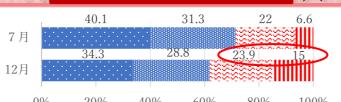
## おおた教育ビジョンの成果指標に連動した児童アンケート項目

- 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思う。

- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- Q14 もち味(よさ)を生かして挑戦している。



# タブレット端末で情報を収集し、自分の



7月に比べて12月は否定的な回答が10.3ポイント増加し、割合も他の

- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- Q2 将来の夢や目標をもっている。
  - 授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ
- タブレット端末で情報を収集し、自分の考えをまとめ、発表することができる。
- 自分にはよいところがあると思う。 Q6
- 運動をもっとしたい。
- 学校に行くのは楽しいと思う。 Q8
- 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- 学校の授業はよくわかる。
- 教えてくれていると思う

あてはまる どちらかといえばあてはまる

どちらかといえばあてはまらない あてはまらない

※第1学年は12月のみ実施

14 項目のうち、研究 に関わる6項目を抽出



# 童の挑戦

- ●答えのない課題に向かって、児童が生き生きと目を輝か せて活動していた。
- ●学校評価(保護者アンケート)によると、「ご自分のお子 さんは、もち味を生かして、挑戦していると思う」で肯 定的な評価が95.6%であった。
- ●地域の人と関わりながら学ぶことができた。
- ●費用対効果や時間対効果、実現可能性など、多様な視点 で教科等横断的に思考を働かせることができた
- ●未来に必要な力を高めていると実感する声が挙がった。
- ▲今後も自己肯定感が更に高まるように指導を工夫し、成 長の実感をもつことができるようにする必要がある。
- ▲前頁の児童アンケートより、2つの課題が明らかになっ た。更に詳細に分析し、次年度への課題として引き継ぐ。

お

お

た

0)

未来

づ

ij

# 教員の挑戦

- ●地域の特色を生かした本校ならではの単元を開発する ことができた。
- ●総合的な学習の時間や行事で以前からつながりのあっ た皆様との人脈を活用することができた。
- ●授業パートナーとの連携を継続することができた。次 年度も引き続き連携を図っていく。
- ●全校での取組となるように、指導の手だてや、重点的に 育成を目指す創造的な資質・能力の素地を全校で統一 して研究を進めることができた。
- ▲学びの価値を校内で共有し、全教員が「おおたの未来つ くり」の指導及び創造的な資質・能力の素地の育成がで きるようにする必要がある。

# ・ 研究を通して学校をよりよく変える Well-being



# 児童の挑戦

- ●第5学年対象のアンケート(1月実施)では、「6年生 になっても教科担任制を続けてほしいですか?」に、 92.6%の児童が肯定的な回答をした。
- ●児童は4月当初から制度に順応していた。「先生の負担 も減るし、それぞれの先生がやる教科がすごく分かりや すかった。」「いろいろな先生とコミュニケーションがと れて楽しい。」という意見が児童から出た。
- ●「教科担任制の経験は中学校への進学に役立つと思いま すか?」に第6学年全員が肯定的な回答をした。
- ●小学生駅伝大会では、13大会のうち過去最高9位。
- ▲特別支援教室に通える時間の選択肢が限られた。学級担 任の授業時間に通うと、週3時間の体育のうちの2時間 に参加できないといった問題が生じた。学級担任の授業 にも参加できるように、国語、算数、社会、体育の時間 にバランスよく通えるように調整した。



教科

担任制

# 教員の挑戦

- 教科担任制加配や専科の時間講師の増員で、補教や校務 分掌などに余裕が生まれた。
- ●毎月の教科担任制等推進委員会で、児童の学習上・生活 上の情報共有が十分でき、教員の同僚性も高まった。
- ●教科担任制による空き時間の増加によって生まれた時 間を活用し、授業パートナーと打合せができた。
- ●学校評価(保護者アンケート)によると、「学校は、校内 研究や校内研修を通して、教師の授業力向上に努めてい る」で肯定的な評価が100%であった。
- ▲徐々に教員が制度に慣れていったが、正直、小規模校で のメリットをなかなか見いだせず、苦しかった。
- ▲学級担任の授業が少ない日に、児童に生活指導をする時 間をスキマ時間を工夫して設ける。
- ▲健診の引率など、学級担任が全てを担えなくなったの で、教科担任や専科が分担して担う部分が増えた。

15